

マムルーク朝時代の「ナイル地理書」 —史料としてのファダーイルの書について—

吉 村 武 典

はじめに

本稿では、マムルーク朝時代に記されたナイル川に関するファダーイルの書（以下「ナイル地理書」）について取り扱う。ファダーイル *faḍā'il* の原義は、美德や美質を表すファデーラ *faḍīla* の複数である。文学上では人やもの、都市や地域などを対象にそれぞれの特徴や性質についての賛美が記された書物をさす。ファダーイルの書が取り扱う代表的なモチーフとしては、コーラン、預言者、教友（サハーバ）などのイスラームの教えの根本にかかわるものや⁽¹⁾、メッカ、メディナ、イェルサレム（クドゥス）などの聖地などが挙げられる。そのほか、ダマスカス、バグダード、カイロなどの諸都市や諸地域、預言者の子孫（サイード）、諸民族、部族などがある。また、ファダーイルが扱う事象はさらに広範におよび、ラジャブ月やラマダーン月などのヒジュラ暦において宗教的に重要な月、バスマラ、ジハード、剃髪、曜日、弓術、コーヒーなどにもファダーイルの書が編まれた⁽²⁾。

以上の多岐にわたるファダーイルの書のうちエジプト地域もしくはナイル流域を対象にしたファダーイルの書は、マムルーク朝以前から著述されており、代表的なものとしてキンディー *al-Kindī* (350/961) の *Faḍā'il Miṣr*⁽³⁾、イブン・ズラーク *Ibn Zūlāq* (d. 387/997) の *Kitāb Faḍā'il Miṣr wa Akhbār-hā wa Khawwās*⁽⁴⁾などが挙げられる⁽⁵⁾。これらが書かれた10～11世紀はエジプトにおいてイフシード朝、ファーティマ朝がアッバース朝支配から独立した地方政権を形成した時期であり、エジプト地域に特化したファダーイルが記される背景のひとつと考えられる⁽⁶⁾。

マムルーク朝期においても同様にエジプト地域を題材にしたファダーイルが記され、その題材は多岐に及んだ。そのなかでナイル川を中心に取り上げた「ナイル地理書」は多くの知識人によって記された。ムハンマド・ハムディー *Muḥammad Ḥamdī al-Manāwī* はナイル川について書かれたアラビア語史料について、宗教書、文学（詩）を除いて、地理学書、歴史書、旅行記、税制・政治手引書の4つの分類で整理を行ったが⁽⁷⁾、当時には刊行されておらず、写本として残された作品については、紹介にとどまり以上の分類に入れることはしなかった⁽⁸⁾。本稿ではこれら未分類の写本のうちエジプト国立図書館 *Dār al-Kutub al-Miṣriyya* に所蔵されるマムルーク朝時代に記され

た4作品を取りあげ、これらの作品の著者情報、引用関係、記事内容から「ナイル地理書」の史料としての特質について紹介する。

1、史料の概要

(i) 『幸福なるナイルの記録における長大なる氾濫』 *Fayḍ al-Madīd fī Akhbār al-Nīl al-Sa‘īd* (以下、*Fayḍ al-Madīd*)

著者：Aḥmad b. Muḥammad b. Muḥammad Ibn ‘Abd al-Salām b. Mūsā, Shihāb al-Dīn Abū al-Khayr al-Manūfī al-Shāfi‘ī (847-931AH) (以下、マヌーフイー)

写本：1, MS. Dār al-Kutub al-Miṣriyya, Jughrāfiyā 66: 43pp., 1154AH 書写⁽⁹⁾

2, MS. Dār al-Kutub al-Miṣriyya, Jughrāfiyā 429: 30pp., 988AH 書写

この作品は、エジプト国立図書館のカタログ、およびその他のカタログによると、マヌーフイーの作品とされている⁽¹⁰⁾。しかし序文によれば、*Fayḍ al-Madīd* のオリジナルは、Zayn al-Dīn Abū Muḥammad ‘Abd al-Raḥmān b. Muḥammad Ibrāhīm Lājīn al-Rashīdī al-Shāfi‘ī (741/1340-803/1400) (以下、ラシイーディー) の *al-Rawḍ al-Naḍīr wal-Zahr wal-‘Iṭr* の一部 (第3巻) を写したものであり、底本はラシイーディーの直筆であると記している⁽¹¹⁾。

マヌーフイーについては *Kashf al-Zumūn* にその没年 (931/1524) のみが記されている⁽¹²⁾。一方、元となった作品の著者として記されているラシイーディーの経歴については、741 (1340) 年にエジプトに生まれ、マイドゥーミー Maydūmī (663/1264-753 / 1352 or 754/1353)⁽¹³⁾ やアイユビー Muḥammad b. Ismā‘īl al-Ayyūbī (674/1275-756/1355)⁽¹⁴⁾、イブン・アミーラ Ibn Amīla らに師事した⁽¹⁵⁾。その後教育活動をカイロで行い、イブン・ハジャール Ibn Ḥajar al-Asqalānī (d. 852/1449) も彼のもとで一時期学んだとされている。そのほかにムアッジンの長 ri‘ās al-mu‘adhdhinīn⁽¹⁶⁾ やフセイーン・モスクのハティーブを務め、804 (1401) 年に同地で亡くなったことが伝えられている⁽¹⁷⁾。

本稿では、よりマヌーフイーの時代に近い 988AH 年に書写された Jughrāfiyā 429 を基に論を進める。ところで、上記1番目の Jughrāfiyā 66 写本には、冒頭に著者としてマヌーフイーの名前が記されている (p. 1) ほか、末尾に書写年代および写本の所有者の変遷 (pp. 82-84) と詩の付け足しが行われている (pp. 84-86) ほかは Jughrāfiyā 429 写本の内容と一致する。しかし、Jughrāfiyā 66 写本にはそれまでのアラビア語写本とは異なり、ページの下部に線で分けをし、注番号を付けて解説を付しているページが何箇所もある (pp. 20, 23, 28)。このような西欧 (フランス)⁽¹⁸⁾ からもたらされたと考えられる注記の手法がアラビア語写本に現れることは珍しい。

さて、本作品の構成は、4つの章 (bāb) と終章 (khātim) の5部構成になっており、第1章はさらに10節 (faṣl) に分けられ、この第1章が本作品の大部を占めてい

る。次に *Jughrāfiyā* 429 を基に各章、節の内容について示す。

第 1 章

- 第 1 節 ナイルの源流とその流域について (pp. 4-15)
- 第 2 節 ナイルの増減水の時期について (pp. 15-20)
- 第 3 節 ナイルの名称、景観、特質について (pp. 20-26)
- 第 4 節 ナイルの満水時に行われることについて (pp. 26-28)
- 第 5 節 ナイル測量所 (ミクヤース) について (pp. 28-31)
- 第 6 節 白ナイルと青ナイルについて (pp. 31-32)
- 第 7 節 灌漑土手 (jisr)、運河 (khalīj)、灌漑水路 (tur⁴) について (pp. 32-36)
- 第 8 節 ナイル流域の地域区分について (pp. 36-38)
- 第 9 節 エジプトの税収入について (pp. 38-41)
- 第 10 節 ナイル流域の植生 (花、樹木、果樹) について (pp. 41-44)

第 2 章 四大河川について *Sayhān, Jayhān, al-Furāt al-Nīl* (pp. 44-48)

第 3 章 エジプト各地の素晴らしい建造物について (pp. 48-52)

第 4 章 エジプトの古代遺跡、ピラミッド、スフィンクスについて (pp. 52-56)

終 章 (pp. 56-60)

以上が本作品の構成である。第 1 章第 1 節が 4 分の 1 を占め、複数の引用からなる。

本作品は先に述べたようにラシーディーの作品を基にしたものであるが、のちに述べる *Ibn ‘Imād al-Aqfahsī* からの引用が見られ⁽¹⁹⁾、またラシーディー没後の 808 (1405) 年のナイルの満水に関する記事が見られる⁽²⁰⁾。このことから、*Fayḍ al-Madīd* はラシーディーの作品を基にしてマヌーフイーが加筆して製作したことがうかがえる。

(ii) 『増水するナイルにおける調査の達成』 *Nayl al-Rā‘ida fi al-Nīl al-Zā‘ida*⁽²¹⁾ (以下、*Nayl al-Rā‘id*)

著者：Muḥammad b. ‘Umar b. Raslān b. Naṣīr b. Ṣāliḥ al-Bulqīnī, Badr al-Dīn b. Silāj al-Dīn al-Bulqīnī al-Shāfi‘ī (757-791/1356-1389)⁽²²⁾

写本：

- 1、MS Dār al-Kutub al-Miṣriyya, *Jughrāfiyā* 380, 9 fols., 1346AH 書写
- 2、MS Dār al-Kutub al-Miṣriyya, *Buldān al-Taymūr* 130, 14pp.,

上記の 2 番目の写本は、エジプト国立図書館のカタログでは、アル=ヒジャージー *Shihāb al-Dīn al-Ḥijāzī* (d. 874/1469)⁽²³⁾ の作品として登録されている。ヒジャージーの作品としてはほかに MS Dār al-Kutub al-Miṣriyya, *Buldān al-Taymūr* 188 があり⁽²⁴⁾、こちらはナイルの美德や美質についての文言を集めた前半部分とヒジュラ元 (622) 年から 874 (1469) 年までのナイルの増減水について記録した 2 部構成の書物で、166

fols.の大部な作品である。

ムハンマド・ハムディーは MS Buldān al-Taymūr 130 について冒頭に「アル=ヒジャージー曰く」で始まることから、バドゥルッディーン・ブルキーニーの作ではないとしつつ、同時にもしくはバドゥルッディーン・ブルキーニーからの引用の可能性も示唆し明確な答えは出していない⁽²⁵⁾。著者の実見の限りでは、バドゥルッディーン・ブルキーニー作とされるエジプト国立図書館所蔵の2写本は内容が完全に一致した。おそらく、アル=ジャーヒジーとされる大部の作品の冒頭はバドゥルッディーン・アル=ブルキーニーを引用したと考えられる。バドゥルッディーン・ブルキーニーもしくはアル=ヒジャージーの作品とされるこれらの写本については、アラブ連盟写本研究so所ははじめ他の写本を含めた検討をおこなう必要があるだろう。ここでは、MS Dār al-Kutub al-Miṣriyya, Juḡhrāfiyā 380 をもとにバドゥルッディーン・アル=ブルキーニーの作品として論を進める。

著者のバドゥルッディーン・アル=ブルキーニーはそのニスバ（由来名）からもわかるように、マムルーク朝の有力ウラマーのブルキーニー家の一員である⁽²⁶⁾。757/1356年カイロで生まれ、父親シラージュッディーン・アル=ブルキーニー⁽²⁷⁾のもとでコーラン、シャーフィイー派の教学、フィクフ、ウスール、アラビア語、文学を学んだ。その後、父親の跡を継ぎカーディー・アル=アスカル Qāḍī al-‘Askar⁽²⁸⁾ とムフティー・ダール・アル=アドル Muftī Dār al-‘Adl に就任したが、父親より先に791/1389年に亡くなり、父が建設したマドラサ⁽²⁹⁾に埋葬された。

本作品では、冒頭に著作の目的を明確に記しており、「エジプトの美点とナイルにかかわる諸情報、そしてナイルにかかわること全てを著述する」(p. 2) としている。また、本作品の特徴は、他の作品では見られなかったヌワイリーの *Nihāyat al-Adab* からの引用がなされており、しかも作品全体の半分以上を占めているところである。

引用されている内容はアラブのエジプト征服後のウマルとアムル・ブン・アル=アースとのハラージュ（地租）の徴収に関する書簡のやり取りが主要な位置を占めている。そのほかナイル川の源流と流域の地理情報、コプト暦と季節についての解説、エジプトゆかりの預言者の伝承が付されている。しかし、同時代の情報については特に記されていない。

(iii) 『ナイル録』 *Akhbār Nīl Miṣr*

著者：Shihāb al-Dīn Abū al-‘Abbās Aḥmad b. al-‘Imād b. Yūsuf b. ‘Abd al-Nabī al-Aqfahī, al-Qāhirī al-Shāfiī (d. 808/1406)⁽³⁰⁾

写本：

- 1、MS. al-Zakiyya 471 : Dār al-Kutub al-Miṣriyya, 70 fols., 899AH 書写（書写人不明）
- 2、MS. Juḡhrāfiyā Ḥalīm 9 : Dār al-Kutub al-Miṣriyya, 30 fols., 1077AH (Muṣṭafā b. ‘Abd Allāh) 書写
- 3、Nīl Miṣr wa Ahrām-hā, MS. Maktabat Baladiyya al-Iskandriyya 1627 bā : 780AH 書写、

著者直筆の可能性が高いとされる

4、Kitāb fī Dhikr Baḥr al-Nīl wa mā yata‘allaq bi-hi, MS. Maktabat al-Jāmi ‘al-Azhar 207, Inbābī 48815 : 1109AH 書写

5、Qawl al-Mufid fī al-Nīl al-Sa‘id MS Maktabat Baladiyya al-Iskandriyya 4939 dār : 1266 AH 書写

著者のイブン・イマード・アル=アクファフシーはカイロに在住し、iiの作品の著者バドゥルッディーン・アル=ブルキーニーの父であるシラージュッディーン・アル=ブルキーニーをはじめ多くのウラマーからシャーフィイー派の法学を学んだ⁽³¹⁾。

本作品は近年に校訂がなされ出版されたばかりのものである⁽³²⁾。写本のヴァリエントが比較的が多く、校訂版で使用された写本は上記の1, 2番目の写本のみである。しかし、著者直筆の可能性の高い3番目の写本を使用していない点で問題があると考えられる。

構成：

第1章 ナイル川を讃える文言

第2章 ナイル川の水源についての記述

第3章 アススート県 kūra、アブー・アル=ファーイダ Abū al-Fā‘ida 山

第4章 ピラミッド

第5章 ナイル沿いの古い壁

第6章 ナイル川の増減水を知るためにエジプトに設置されたナイル測量所

第7章 ナイル川の増水

第8章 ナイル川の水が流れる場所

第9章 (ナイル以外の) 三つの川、Sayhān, Jayhān, al-Furāt

第10章 海 baḥr と川 nahar の違いについて

第11章 地中から溢れる水

(iv) 『記録におけるナイルの始まり』 *Mabda’ al-Nīl ‘alā al-Taḥrīr* (以下、*Mabda’*)

著者：Muḥammad b. Aḥmad b. Ibrāhīm, Jalāl al-Dīn al-Maḥallī (d. 864/1459)⁽³³⁾

写本：MS. Dār al-Kutub al-Miṣriyya, Buldān Taymūr 129 : 24pp.

この写本は、奥付によれば1077/1666年に書写されており、ナスハ体の整った写本である。エジプト国立図書館のカタログによれば、この書物の著者はジャラルッディーン・アル=マハッリーとされているが、実際にはマハッリーの記述部分は、冒頭8頁のみであり、残りは弟子でもあるスューティー Jalāl al-Dīn al-Suyūṭī の著作からの引用である。

冒頭8頁のマハッリーの記述部分は、同じくマハッリー作と伝えられるアズハル大学図書館所蔵の写本 *Risālat al-Nīl wa mā yata‘alliq bi-hi* (ma‘ārif ‘amma 58525 : 6 fols.) の記述内容と一致することを確認した⁽³⁴⁾。

構成：

マハッリー (pp. 2-8)

第1章 ナイルの源流 (pp. 2-3)

第2章 五大河川 Sayhān, Jayhān, al-Furāt al-Dijla, al-Nīl (pp. 3-6)

第3章 美質について (pp. 6-8)

- ・ナイル川 = 蜜の川
- ・エジプトの4季 = 4色 白(冬)、黒(春)、緑(エメラルド)(夏)、赤金(秋)

- ・農地と作物
- ・アスユート県と Abū al-Fā'ida 山
- ・ピラミッド、スフィンクス
- ・エジプトの諸預言者 (ユースフ、ムーサー)

スューティー (pp. 8-23) [*Kawkab Rawḍa*, *Ḥusn* の該当部分]

- ・コーランに現れるナイル川 (pp. 8-9) [*Kawkab Rawḍa*, 112-113; *Ḥusn* 2:302]
- ・ナイル川の別称 (p. 10) [*Kawkab Rawḍa*, 114]
- ・ハディースに現れるナイル (pp. 10-11) [*Kawkab Rawḍa*, 114-116]
- ・天の四つの川 (pp. 11-12) [*Kawkab Rawḍa*, 117-119]
- ・ナイルの源流、その流れ、増水についての人々の諸説 (pp. 12-23)
[*Kawkab Rawḍa*, 119-133; *Ḥusn*, 2:313-314]

マハッリーの部分には、特に引用元については書かれていない。第1章、第3章は内容から他の作品同様にマスウーディー、イブン・ズーラクなどからの引用であることがわかる。また、第3章のアスユート県とアブー・アル=ファーイダ山、ピラミッド、スフィンクスに関する記述は、アクファフシーからの引用である⁽³⁵⁾。第2章は通常では他の作品がハディースに現れる天国に由来する四つの河川を記すのに対して、チグリス川 (al-Dijla) を加えて五つの河川を取り上げている。

スューティーの部分とされる後半部は朱字によってそれぞれの章に当たる部分が始められており、上記の内容構成はこの朱字によって記された部分を章の標題と考えて分割した。そして、その内容の多くは同著者の作品でナイル川と中州のローダ島を主題にしたファダーイルの書 *Kawkab al-Rawḍa* からの引用が多くを占めるが、抜粋された引用である。明らかに引用関係がうかがえる作品であるが、著者が抜粋したのか書写した際に抜粋されたものかは不明。スューティーのナイルに関するほかの作品としては、*Bulbul al-Rawḍa*⁽³⁶⁾ が知られているが、これも *Kawkab Rawḍa* に収載されている。このようにスューティーの作品は一部抜粋や要約された小作品として様々なヴァリエーションが存在する。これらの製作過程はそれぞれの写本を整合する必要がある。

以上、各「ナイル地理書」の概要である。次に以上の作品の共通の構造と個々に特有の情報について考察する。

2、「ナイル地理書」の特徴

i 著者

今回とりあげた4作品の著者はすべてシャーフィイー派に所属する法学者である。また、それぞれに学問上の師弟関係にあるものがバドウルッディーン・アル=ブルキーニーとイブン・イマード・アル=アクファフシーで、この二名はシラージュッディーン・アル=ブルキーニーに教えを受けており兄弟弟子の関係にあったことがうかがえる。またマハッリーとスューティーの師弟関係についてはすでに述べた。

また、スューティーはアル=ライス・ブン・サアド al-Layth b. Sa'ad の伝えるハリード・ブン・アブー・シャールーム Ḥāyḍ b. Abū Shālūm にまつわるナイル川のハディースについて引用しているが、自分に至るまでのこのハディースの伝承経路を以下のよう

Maydūmī → Abū al-Faḍl 'Abd al-Raḥmān al-Ḥusayn al-'Irāqī → Shirāj al-Dīn al-Bulqīnī → Jalāl al-Dīn al-Bulqīnī (d. 824), 'Alam al-Dīn Ṣāliḥ al-Bulqīnī (d. 868) → スューティー⁽³⁷⁾

このうち最初にあげられた、マイドゥーミーは *Fayḍ al-Madīd* の底本の作者であるラシーディーの師の一人であることは先に述べた。また、ジャラルッディーン・アル=ブルキーニーとアラムッディーン・アル=ブルキーニーはバドウルッディーン・アル=ブルキーニーの兄弟であり、ともに父親から教育を受けていた。このように、マヌーフイーを除くそれぞれの「ナイル地理書」の作者は同じシャーフィイー派に属するだけでなく、学問（伝承学）的背景においても共通の知識を有していたことが観察できる。

ii 地理的景観の概要

それぞれの「ナイル地理書」の構成には異動が見られるが、共通にみられる項目として、ナイル源流とその流域に関する情報である。しかし、それぞれの「ナイル地理書」の引用元には異同が見られる。ここでは、まず共通のナイルの源流と流域についての描写を紹介し、そこで各作品が引用している典拠をしめし、比較検討を行いたい。

ナイル川の源流はクムル山 Jabal al-Qumr に端を発し、そこから10ないしは12の川が流れ出る。それらはそれぞれ5つないし6つの川は2つの湖 buḥayra/baṭīḥa に流れ込む。その後それぞれの湖から3つ、計6つの川が流れ出でる。これらの川はその後下流のもう一つの湖に集まる。この湖から1本の川が流れ出で、これをナイルと呼んだ。その後、スーダン、ヌビアの土地を過ぎ、エジプトに達する。ここまでが第1地

域 al-iqlīm al-awwal である。エジプト最南端の街であるアスワンからアスユートまでが第2 地域 al-iqlīm al-thānīd である。ここから地中海の河口までが第3 地域 al-iqlīm al-thālīth である⁽³⁸⁾。

ナイルの水源とされるクムル山は、別にカマル Qamar 山と読む場合があり、これは月に由来するという⁽³⁹⁾。また、カムル Qamr 山と読む場合もあり、この場合は白く輝くことに由来する。クムルと呼ぶ場合も白いという色から来る説と、この山の近くに多く生息する鳥の種類 (qumri=キジバト) に由来するという説が紹介されている⁽⁴⁰⁾。

表：ナイルの源流と流域に関する引用の典拠

著 者 名	書 名	史 料
Ibn ‘Abd al-Ḥakam (d.257/870)	<i>Futūḥ Miṣr wal-Maghrib</i>	<i>Akhbār Nīl</i>
al-Jāhīz (d.254/868 c.a.)	<i>Kitāb al-Amṣār</i>	<i>Akhbār Nīl</i>
Ibn Sirābyūn (d.289-334/ 901-945)	<i>al-Aqālīm al-ṣab‘a</i>	<i>Akhbār Nīl</i>
al-Mas‘ūdī (d.349/956)	<i>Murūj al-Dhahab</i>	<i>Fayḍ al-Madīd;</i> <i>Akhbār Nīl Miṣr;</i> <i>Mabda’*</i>
Ibn Zūlāq (d.387/998)	<i>Faḍāil Miṣr wa Akhbār-hā wa Khawāṣ-hā</i>	<i>Fay al-Madīd;</i> <i>Akhbār Nīl Miṣr</i>
Ibn Jinī (d.392/1002)	<i>al-Khaṣā’iṣ</i>	<i>Akhbār Nīl</i>
al-Tha‘labī (d.427/1036)	<i>Qīṣaṣ al-Anbyā’</i>	<i>Fayḍ al-Madīd</i>
al-Idrīsī (d.560/1165)	<i>Nuzhat al-Muṣhtāq fī Iktirāq al-Afāq</i>	<i>Fayḍ al-Madīd</i>
Ibn al-Athīr (d.630/1233)	<i>al-Nihāya fī Gharīb al-Ḥadīth wal-Āthār</i>	<i>Akhbār Nīl</i>
Muḥī al-Dīn al-Nawawī (d.676/1300)	<i>Tahdhīb al-Asmā’ wal-Lughāt</i>	<i>Fayḍ al-Madīd</i>
al-Qazwīnī (d.682/1283)	<i>‘Ajā’ib al-Makhlūqāt</i>	<i>Nayl al-Rā’ida;</i> <i>Mabda’</i>
Ibn al-Manzūr (d.711/1312)	<i>Lisān al-‘Arab</i>	<i>Akhbār Nīl</i>
Jamāl al-Dīnāl-Waṭwāt al-Kutbī (d.718 /1318)	<i>Manāhij al-Fikr</i>	<i>Fayḍ al-Madīd;</i> <i>Mabda’</i>
Nuwayrī (d.733/1333)	<i>Nihāyat al-Arab</i>	<i>Nayl al-Rā’ida</i>
Ibn al-Qayyim al-Jawziyya (d.751/1350)	<i>al-Hudā al-Nīl</i>	<i>Fayḍ al-Madīd</i>
Ibn Kathīr (d.774/ 1373)	<i>ta’rīḥ-hu kabīr</i>	<i>Fayḍ al-Madīd</i>
(Ibn Aybak al-Dawādārī (d.8/14 c.))	<i>Durar al-Tijān wa Ghurar Tawār ikh al-Zamān</i>	<i>Fayḍ al-Madīd</i>
Shihāb al-Dīn Ibn Imād (d.808/1406)	<i>Akhbār Nīl Miṣr</i>	<i>Fayḍ al-Madīd</i>
al-Maqrīzī (d.845/1409)	<i>Khīṭaṭ al-Maqrīzī</i>	<i>Mabda’</i>
Abū Muḥammad ‘Abd Allāh b. Aḥmad b. Salīm al-Aswānī (d.10/16 c.)	<i>Akhbār al-Nūba min Akhbār al-Nīl</i>	<i>Fayḍ al-Madīd</i>

* *Mabda’ al-Nīl ‘alā al-Taḥrīr* については、マハッリーの著述部分には典拠が示されていないため、スューティーの部分のみで引用を行っているものを示す。

以上の表はそれぞれの作品が直接引用しているとみられる典拠を示したが、今回取り上げた4点の「ナイル地理書」において共通に見られる引用の典拠としては、マスウーディー、イブン・ズーラク、カズウィーニーら古典的なファダーイル、地理書からであった。特にマスウーディーからの引用は最も多く見られ、一つの引用の定型をなしていたとみられる。一方、バドゥルッディーン・アル=ブルキーニー、スューティーにはマムルーク朝時代に入ってから史料を引用している点は特殊である。また、スューティーの場合、*Husn*においても多くのマクリーズィーからの引用が見られ、同様の傾向がみられる。

iii ナイル川の長さと言域

ナイルの長さ、言域の区分けについては、作品ごとに若干の異同が見られる

「3000ファルサフ *farsah*（1ファルサフ=6,000m）、言域荒廢地 *khurrāb* を4か月、スーダンを2か月、エジプト *bilād al-Islām* を1か月流れる。（イブン・ズーラク）8,624と1/3マイル（*Durar al-Tijān*）。4,570マイル（*Khizāna al-Ta'rikh*）。イブン・ズーラク曰く、エジプト1か月、ドゥンクラ *Dunqula*⁽⁴¹⁾ を1か月、荒廢地言域を4か月流れる。」[*Fayḍ al-Madīd* pp. 8-9.]

「荒廢地を3か月、ヌビア言域を2か月、イスラーム言域を1か月流れる。」[*Mabda'*, p. 2.]

「荒廢地言域を4か月、ヌビア言域を2か月、イスラーム言域を1か月流れる。」[*Nayl al-Rā'id*, p. 15; *Mabda'*, p. 13.]

以上のように言域の長さには差があるものの、ナイルの源流からヌビアまでは荒廢地、ヌビア言域（ドゥンクラ）、アスワン以南から地中海までの言域をイスラームの言域 *bilād al-Islām* として3つに分けている点では同様である。また、ナイル源流からヌビア言域までを第1言域 *al-iqlīm al-awwal*、アスワンからアスユート周辺までを第2言域 *al-iqlīm al-thānī*、アスユート以南から地中海河口までを第3言域 *al-iqlīm al-thālith* とナイル言域を分けていた。このように、アスワンから地中海までの言域をイスラーム言域として、エジプトの領域と考え、アスワン以南をイスラームの圏外とする見方が一般的であったようである。

iv コプト暦

太陽暦に基づくコプト暦は、ナイル川の増減水と深く結び付いており、農業を行うための時の指標として用いられてきた⁽⁴²⁾。「ナイル地理書」にはコプト暦について触れられた箇所がいくつあり、とくにナイル川の増水時期がコプト暦でいつに当たるかについては必ず記載がある⁽⁴³⁾。*Mabda'*では Bu'ūna, Masrā, Abīb, Tūt の4か月が増水期としている⁽⁴⁴⁾。

ブルキーニーの *al-Nayl al-Rā'ida* には他の「ナイル地理書」とは異なり、同じ太陽暦の暦であるシリア暦との月の対象が記されている。また、エジプトの季節は4節に

分けられており、それぞれ3月ごとに白い真珠 (Abīb, Misrā, Tūt)、黒いムスク (Bāba, Hātūr, Kīhak)、緑のエメラルド (Ṭūba, Amshīr, Barmhāt)、赤いルビー (Barmūda, Bashans, Bu'ūna) といった色によって季節をあらわしている⁽⁴⁵⁾。

v ナイルの満水と水利施設の管理維持

ナイルの満水時の水位はそのまま農業生産高の多寡を決定する重要事項であった。増水が足りない場合は、小麦などの穀物価格の高騰に結び付いたため、マムルーク朝時代には、ローダ島で増水時に毎日測量されるナイルの水位はスルターン以下、政府の高官にのみ知らされる最高機密事項であった⁽⁴⁶⁾。ナイルの満水時の水位は、16ジラーウ jirā' (1ジラーウ≒50cm) 以下の低位 al-mutaqāsira、17-18ジラーウの中位 al-mutawas siṭa、18ジラーウ以上の高位 al-'āliyya の3段階に分けられていた⁽⁴⁷⁾。このナイルの満水の水位について *Mabda'* では次のように伝えている：

「16ジラーウに水位が達すれば、エジプト全土において耕作される土地は、3千万フェッダーンである。[中略] もし、ついには13もしくは14ジラーウ、15ジラーウの途中で止まってしまった場合には、増水祈願を行う *istisqā'*」⁽⁴⁸⁾

また、ナイル灌漑の水利施設は、毎年の維持管理が必須とされたが、それに費やされた費用についての具体的な記録はない。このことについて「ナイル地理書」では、預言者ムーサーの時代の慣習としてエジプトの王 (ファラオ) はハラージュ (地租) を次のように分配することとされている。

「4分の1を王と一族に、4分の1を大臣、官僚、兵士に、4分の1を貯えに *dhakhira* に、そして、残りの4分の1を運河 *khalij*、灌漑土手 *jisr*、灌漑水路 *tur'* の管理維持に」⁽⁴⁹⁾

このように水利施設の維持管理にハラージュの4分の1が費やされたことはイブン・アブドゥル・ハカムもイスラーム時代以前の慣習として伝えているが、マクリーズィーは、4分の1以外にハラージュの3分の1が費やされたとする伝承も伝えている⁽⁵⁰⁾。

まとめにかえて

マムルーク朝時代に編まれた「ナイル地理書」はそれまでの古典的なファダーイル、地理書などを引用し、章の構成には異動があるが、一定の形式が存在することがうかがえた。また、15世紀末以降の「ナイル地理書」には、同時代であるマムルーク朝期の史料の引用が見られ、直接古典から引用するのではなく、すでにまとめられたものから孫引きすることもあったと考えられる。

今回取り上げた作品の著者はすべてシャーフィイー派に所属していたが、それぞれに師弟関係や、兄弟弟子の関係にあることがうかがえた。コーラン、ハディースのほか古典的な地理書などからの引用を多用する「ナイル地理書」やファダーイルの書は、伝承学的なかたちで知識人の間に共有されていたことがうかがえる。また、エジプト

の地理情報やナイルの満水、コプト暦における季節など、エジプト固有の実務的な情報を盛り込んでいる点で当時のエジプトの知識人階層が行政面での実態的な知識も併せ持っていたことがうかがえた。

以上の「ナイル地理書」について、今回は史料上の特徴について紹介するにとどまったが、マムルーク朝時代の年代記、地誌、人名録などの他の史料とあわせて同時代のナイル治水やエジプトの地方観については、稿を改めて検討を加えていくつもりである。

<史料>

・ Arabic Manuscripts

Abū Muḥammad al-Ḥasan b. Zūlāq (d. 387/997), *Kitāb Faḍā'il Miṣr wa Akhbār-hā wa Khawwās-hā*, MS. Bibliothèque Nationale, arabe 1816.

Aḥmad b. Muḥammad b. Muḥammad b. 'Abd al-Salām b. Mūsā, Shihāb al-Dīn Abū al-Khayr al-Manūfī al-Shāfi'ī (847-931AH), *Fayḍ al-Madīd fī Akhbār al-Nīl al-Sa'īd*. MS. Dār al-Kutub al-Miṣriyya, Jughrāfiyā 66 ; MS. Dār al-Kutub al-Miṣriyya, Jughrāfiyā 429.

Muḥammad b. 'Umar b. Raslān b. Naṣīr b. Šāliḥ al-Bulqīnī, Badr al-Dīn b. Silāj al-Dīn al-Bulqīnī al-Shāfi'ī (757-791/1356-1389), *Naḥl al-Rā'ida fī al-Nīl al-Zā'ida*. MS Dār al-Kutub al-Miṣriyya, Jughrāfiyā 380 ; MS Dār al-Kutub al-Miṣriyya, Buldān al-Taymūr 130.

Shihāb al-Dīn Abū al-'Abbās Aḥmad b. al-'Imād b. Yūsuf b. 'Abd al-Nabī al-Aqfahsi, al-Qāhiri al-Shāfi'ī (d. 808/1406), *Akhbār Nīr Miṣr*. MS. Dār al-Kutub al-Miṣriyya, al-Zakiyya 471 ; MS. Dār al-Kutub al-Miṣriyya Jughraāfiyā Ḥalīm 9.

Muḥammad b. Aḥmad b. Ibrāhīm, Jalāl al-Dīn al-Maḥallī (d. 864/1459), *Mabda' al-Nīl 'alā al-Taḥrīr*. MS. Dār al-Kutub al-Miṣriyya, Buldān Taymūr 129.

・ Printed Primary Sources

Abū 'Abd Allāh Muḥammad b. Abī Bakr al-Zuhri (d. ca. 550/1163), *Kitāb al-Jughrāfiyya*. ed. Muḥammad Ḥājj Šāḍiq, Cairo, n. d.

Abū 'Abd Allāh Yāqūt b. 'Abd Allāh al-Ḥamawī, Shihāb al-Dīn (d. 626/1229), *al-Mushtarik Waḍ'an wal-Muḥtarik Šaq'an*, Baghdād : Maktaba Muthannā, 19--.

-----, *Mu'jam al-Buldān*, 5 vols. Beirut : Dar al-Sadir, 1957-68.

Abū al-Qāsim Ibn Ḥawqal al-Naṣībī (4/10 c.), *Kitāb Šīrat al-Arḍ*. Beirut : Dār al-Maktab al-Ḥayā, 1992.

Abū Ishāq Ibrāhīm b. Muḥammad al-Fāris, Istakhrī, *al-Masālik wal-Mamālik*. ed. Muḥammad Jābir 'Abd al-'Āl al-Ḥīnī, Cairo : Wizārat al-Thaqāfa wal-Āthār al-Qawmī, 1961.

Abū 'Uthmān b. Ibrāhīm al-Nābulusī (d.685/1286), *Luma' al-Qawanīn al-Mudīya fī Dawāwīn al-Diyār al-Miṣriyya*, Cairo, 19--.

-----, *Ta'rīkh al-Fayyūm wa Bilād-h*, Bayrut, 1974.

al-'Aynī, Bad al-Dīn (d. 855/1451), *Iqd al-Jumān*, 4 vols., M. M. Amin (ed.), Cairo, 1987-92.

al-Dawādārī, Abū Bakr b. 'Abd Allāh Ibn Aybak (d. 8/14c.), *Kanz al-Durar wal-Jāmi' al-Ghurur : (vol. 9) al-Durau al-Fākhīr fī Šīrat al-Malik al-Nāṣīr*, H. R. Romer (ed.), Cairo, 1960.

Ibn Abī Ḥajala Aḥmad b. Yaḥyā al-Tilmisānī, Shihāb al-Dīn (d. 776/1374), *Kitāb Sukrdān al-Sulṭān*. ed. 'Alī

- Muḥammad ‘Umar, Cairo : Maktabat al-Khānjī, 2001.
- Ibn Faḍl Allāh al-‘Umārī, Shihāb al-Dīn Aḥmad b. Yaḥyā (d. 749/1349), *Masālik al-Absār fī Mamālik al-Amṣār*. Vol. 1, ed. ‘Abd Allāh b. Yaḥyā b al-Sarīhī, Abu Dhabi, 2003.
- Ibn Ḥajar al-‘Asqalānī (d. 852/1449), *Inbā’ al-Ghumur bi-Abnā’ al-‘Aṣr*, 4 vols., Ḥasan Hubashī (ed.), Cairo, 1994-98.
- , *al-Durar al-Kāmina fī A’ayān al-Mī’a al-Thāmina*, 5 vols., M. Sayyid Jād al-Ḥaqq (ed.) Cairo, 1966.
- Ibn ‘Imād al-Ḥanbalī, ‘Abd al-Ḥayy b. Aḥmad b. Muḥammad (d. 1089/1678), *Shazrāt al-Dhahab fī Akhbār Man Dhahaba*. Bayrūt : Dār al-Masīra, 1979.
- Ibn al-Manzūr, *Lisān al-‘Arab*, 20 vols., Cairo, n. d. (repr. of Bulaq edition).
- Ibn Taghrī Birdī, Abū al-Maḥāsīn (d. 874/1470), *Nujūm al-Zāhira fī Mukūk Miṣr wal-Qāhira*, 16vols., Faḥīm M. Shaltūt et. al. (eds.), Cairo, 1963–72.
- , *al-Manhal al-Ṣāfi wal-Mustawfā ba’ada al-Wāfi*, vol. 1–12., M. M. Amīn (ed.), Cairo, 1984–2006.
- Ibn Iyās, Muḥammad b. Aḥmad (d.ca.930/1524), *Badā’i’ al-Zuhūr fī Wakā’i’ al-Duhūr*, M. Muṣṭafā ed., 5 vols., Wiesbaden, 1975.
- Ibn Mammātī (d. 606/1209), *Qawānīn al-Dawāwīn*, ‘Azīz Surayyāl ‘Aṭīyah (ed.), Cairo, 1943.
- Ibn Waṣīf Shāh (6-7/13-14 c.), *Jawāhir al-Buḥūr waWaqā’i’ al-Umūr wa ‘Ajā’ib al-Duhūr*. ed. Muḥammad Zaynuhum Muḥammad ‘Azb, Cairo : al-Dār al-Thaqāfa lil-Nashr, 2004.
- Ibn Zūlāq (d. 387/997), *Kitāb Faddā’il Miṣr wa Akhbār-hā wa Khawwāṣ-hā*, ed. ‘Alī ‘Umar, Cairo, 1999.
- Idrisī, *Description de L’Afrique et de L’Espagne*. R. Dozy et M. J. de Goeye ; edited by Fuat Sezgin, Islamic geography vol. 4, Leiden : E. J. Brill, 1866.
- Khalīl b. Shāhin al-Zāhirī (d. 873/1468), *Zubdat kashf al-mamālik : tableau politique et administratif de l’Égypte, de la Syrie et du Ḥiḍjāz, sous la domination des sultans mamloûks du XIIIe au XVe siècle / par Khalīl ed-Dāhīry ; texte Arabe publié par Paul Ravaisse Paris : Impr. nationale, 1894.*
- al-Maqrīzī, Aḥmad b. (d. 845/1442), *al-Mawā’iz wal-I’tibār bi-Dhikr al-Khiṭaṭ wal-Āthār*, 2 vols., Cairo : Bulāq, 1270AH ; repr., Baghdad, 1975 (new ed., Ayman Fuād Sayyid (ed.), 5 vols., London : Fulqān Institution, 2002–2006).
- , *al-Sulūk li-Ma’arifa Duwal al-Mulūk*, vol. 1–2, M. M. Ziyāda (ed.) ; vol. 3–4, Sa’id ‘Abd al-Fattāḥ (ed.), Cairo, 1939–73.
- , *al-Muqqafā al-Kabīr*, 8 vols., M. al-Ya’lāwī (ed.), Beirut, 1991.
- Maswūdī, Abū al-Ḥasan ‘Alī (d. 346/956), *Murūj al-Dhahab wa Ma’ādin al-Jawhar*. 9 vols., ed. C. Barbier de Meynard, Paris : Imprimerie Nationale, 1861–1930.
- Mūsā b. M. b. Yaḥyā al-Yūsfi (d.759/1358), *Nuzhat al-Naẓīr fī Sirat al-Malik al-Nāṣir*, Aḥmad Ḥuṭayṭ (ed.), Beirut, 1986.
- al-Musabbīḥī, ‘Izz al-Dīn al-Malik Muḥammad b. ‘Ubayd Allāh b. Aḥmad (d. 420/1029) *Akhbār Miṣr*. 2 vols., ed. Ayman Fu’ād Sayyid, Cairo : IFAO, 1978–84.
- al-Ṣafaḍī, Ṣalāḥ al-Dīn Khalīl b. Aybak (d. 764/1363), *al-Wāfi bil-Wafayāt*, 1–30 vols., Wiesbaden : Franz Steiner Verlag GMBH, in Kommission bei, 1962–.
- , *A’yān al-‘Aṣr wa A’wān al-Naṣr*. 6 vols., ed. Abū Zayd, ‘Alī et. al., Damascas : Dār a-Fikr, 1998.
- al-Sakhāwī, Muḥammad ‘Abd al-Raḥmān (d. 902/1496), *al-Ḍaw’ al-Lāmi’ li-Ahal al-Qarn al-Tāsi’*. 12 vols., Cairo : Maktaba al-Qudsī, 1935–37.
- al-Qalqashandī, Shihāb al-Dīn Abū al-‘Abbās Aḥmad (d. 821/1418), *Ṣubḥ al-A’shā fī Sinā’at al-Inshā’*, 14

- vols., Cairo, 1964; *Fahāris Kitāb Ṣubḥ al-A'shā*, Cairo, 1972.
- al-Suyūṭī, Jalāl al-Dīn 'Abd al-Rahmān (d. 911/1505), *Bulbul al-Rawḍa*, ed. Nabīl Muḥammad 'Abd al-'Azīz Aḥmad, Cairo: Anglo-Egyptian Bookshop, 1981.
- Ḥusn al-Muḥāḍara fī Ta'rīkh Miṣr wal-Qāhira*, 2 vols., M. Abū al-Faḍl Ibrāhīm (ed.), Cairo, 1998.
- , *Kawkab al-Rawḍafi Ta'rīkh al-Nīl wa Jazīra al-Rawḍa*. Muḥammad al-Shashtāwī (ed.), Cairo: Dār al-Āfāq al-'Arabiyya, 2002.
- al-Ziriklī, Khayr al-Dīn, *al-A'lām: Qāmūs Tarājīm li-Ashhar al-Rijāl wal-Nisā' min al-'Arab wal-Musta'ribīn wal-Mustashriqīn*. 8 vols., Beirut, 1979.

注

- (1) 1 代表的なものとして、Abū 'Ubayd (d. 224/837), *Kitāb al-Amthār*; *Kitāb Faḍā'il al-Qur'ān*; Wahb b. Wahb (d. 200/815), *Faḍā'il al-Anṣār*; al-Shāfi'ī (d. 204/820), *Kitāb Faḍā'il Quraysh wal-Anṣār*; Aḥmad Ibn Ḥanbal (d. 241/855), *Kitāb Faḍā'il al-Anṣār* などがあげられる。
- (2) *ET*^{2nd} s. v. faḍīla [R. Sellheim]; *Kashf al-Zūn*, 2:1126-1128, 1274-1280.
- (3) 'Umar b. Muḥammad al-Kindī (d. 4/10 c.), *Faḍā'il Miṣr*, I. A. al-'Adawī, and A. M. 'Umar (ed.), Cairo: Maktaba Wahba, 1971.
- (4) Abū Muḥammad al-Ḥasan b. Zūlāq (d. 387/997), *Kitāb Faḍā'il Miṣr wa Akhbār-hā wa Khawwāy-hā*, MS. Bibliothèque Nationale, arabe 1816.
- (5) *ET*^{2nd} s. v. al-Nīl [J. H. Kramers].
- (6) 清水宏祐「十字軍とモンゴルーイスラム世界における世界史象の変化」『世界史とは何か—多元的世界の接触の転記』歴史学研究会編、東京大学出版会、1995、24-29頁；大森哲也「参詣の書と死者の町からみたコプトとムスリム」『史淵』138 (2001)、22頁。
- (7) Muḥammad Ḥamdī al-Manāwī, *Nanr al-Nīl fī al-Maktab al-'Arabiyya*, Cairo: al-Maktaba al-'Arabiyya, 1966, 24-48.
- (8) Ibid. 223-243.
- (9) 各写本の現状に基づき各頁に番号が振られているものはページ数 (p.)、フォリオごとに番号が振られているものはフォリオ数 (fol.) で引用箇所を示す。
- (10) *Kashf al-Zūn*, 1:1304; Brockelmann, C. *Geschichte der Arabischen Literatur*. 5 vols., Leiden: E. J. Brill, 1937-49, 2:295; 4:406.
- (11) *Fayḍ al-Madīd*, 2; Bargés, A. "Les sources du Nil," in *Journal Asiatique* ser. 3, 3:97-164.
- (12) *Kashf al-Zūn*, 1:1304.
- (13) Muḥammad b. Muḥammad b. Ibrāhīm al-Maydūmī, Ṣadr al-Dīn Abū al-Faḥ. See: *A'yān al-'Aṣr*, 5: 195 (no. 1763); *al-Durar al-Kāmina*, 4:274 (no. 4279); *al-Nujūm*, 10:291.
- (14) *al-Durar al-Kāmina*, 5:9 (no. 3548).
- (15) *Fayḍ al-Madīd*, op. cit.
- (16) Cf. Ḥasan al-Bāshā, *al-Funūn al-Islāmiyya wal-Waḍā'if 'alā al-Āthār al-'Arabiyya*, 3 vols., Cairo, 1966, 2:560.
- (17) al-Muqaffā al-Kabīr, 4:73 (no. 1442); *Inbā' al-Ghumr*, 2:168; *al-Ḍaw' al-Rāmi'*, 4:199 (no. 319); *al-Dalīl al-Shāfi'*, 1:406 (no. 1399); *Shadhrāt al-Dhahab*, 7:29.
- (18) Jughrāfiyā 66 写本 p. 83 に文中にフランス語で書写年代について説明が付されている。
- (19) *Fayḍ al-Madīd*, pp. 5, 9, 14, 15, 28.

- (20) *Fayḍ al-Madīd*, p. 32.
- (21) M. Hamdīによればこの作品は Shihāb al-Dib al-Ḥijāzī (d. 875/1470) の作品としている。(Muḥammad Ḥamdī al-Manāwī, op. cit., 228.)
- (22) *al-Durar al-Kāmina*, 4:223-224 (no. 4152); *al-Manhal al-Ṣāfi*, 10:236-238 (no. 2298).
- (23) Aḥmad b. Muḥammad b. ‘Alī b. Ḥasan b. Ibrāhīm, Shihāb al-Dīn. (See: *al-Ḍaw’ al-Rāmi’*, 2:147. *Husn*, 1:496.)
- (24) その他、アラブ連盟写本研究所 Ma’had al-Makhṭūṭāt al-‘Arabiyya に MS Buldān wa Jughrāfiyā 146 (200 fols.), 147 (51 fols.) の二点のマイクロフィルムが納められている。いずれもアル=ヒジャージの作で、MS Buldān wa Jughrāfiyā 146 は著者の時代に書写されたものであると考えられている。
- (25) Muḥammad Ḥamdī al-Manāwī, op. cit., 227-231.
- (26) *EI*^{2nd} s. v. al-Bulqīnī [H. A. R. Gibb].
- (27) Shirāj al-Dīn Abū Ḥafṣ ‘Umar b. Raslān al-Bulqīnī (d. 805/1402). 765 (1363) 年に Dār al-‘Adl のムフティに任命。769 (1367) 年にダマスカスのシャーフィイー派の大カーデイーに任命。*Inbā’ al-Ghumr*, 2:245; *al-Sulūk*, 3:1108; *al-Nujūm*, 13:29; *al-Da’īl al-Shāfi*, 1:497 (no. 1727); *al-Manhal al-Ṣāfi*, 8:285 (no. 1734); *Nuzhat al-Nufūs*, 2:171; *al-Ḍaw’ al-Lāmi’*, 6:85 (no. 286); *Shazrāt al-Dhahab*, 7:51.
- (28) qāḍī al-‘askar: マムルーク朝のウラマーの就く宗教職において大カーデイー qāḍī al-quḍā に次ぐ第2位の職 (*Ṣubḥ*, 4:36, 192)。
- (29) マドラサ・ブルキーニー (Madrasa al-Bulqīniyya): このマドラサは現在、ブルキーニー・モスク (Jāmi’ al-Bulqīnī) として知られる。ハーキム・モスクに近い、Bāb al-Qantara に隣接する ḥāra Bahā’ al-Dīn Qarāqūsh に存在する。(See: *Khiṭaṭ*, 2:405; *Ibn al-Furāt*, 9-1:178; *al-Nujūm al-Zāhira*, 11:389, n. 2; *Khiṭaṭ al-Tawfiqiyya*. 4:139.)
- (30) *Inbā’ al-Ghumr*, 2:332; *al-Sulūk*, 4:25; *al-Ḍaw’ al-Lāmi’*, 2:47-49; *Shazrāt al-Dhahab*, 2:73; *al-Zirikī*, 1:178
- (31) See n. 27.
- (32) Ibn ‘Imād al-Aqfahsī, *Akhbār Nīl Miṣr*. ed. Labība Ibrāhīm Muṣṭafā and Ni’māt ‘Abbās Muḥammad. Cairo: Dār al-Kutub al-Miṣriyya and Dār al-Wathā’iq al-Qawmiyya, 2006.
- (33) *al-Ḍaw’ al-Lāmi’*, 7:39; *Husn*, 1:382-83; *Shazrāt*, 7:303; *Akhbār Nīl Miṣr*, 14.
- (34) Bibliothèque Nationale (Paris) ではマハッリー作として *al-Qawl al-Mufīd fi al-Nīl al-Sa’īd* が所蔵されているが、39 fols. の写本でありエジプト国立図書館所蔵の写本と同様に単独の作品とは考えにくい。Brockelmann, 2:138; 4:140.
- (35) *Mabda’ al-Nīl*, p. 7. See: *Akhbār Nīl Miṣr*, pp. 61-62 (第3, 4章)。
- (36) *Bulbul al-Rawḍa*, 21-22.
- (37) *Mabda’ al-Nīl*, pp. 20-21: *Kawkab al-Rawḍa* (131-132)では、al-Layth b. Sa’ad からマイドゥーミーに至るまでの伝承経路も記されているが、*Mabda’ al-Nīl* ではこの部分は省略されている。(see also *Mu’jam al-Buldān*, 5:338)
- (38) *Fayḍ al-Madīd*, pp. 4-6; *Akhbār Nīl Miṣr*, pp. 57-60; *Nayl al-Rā’id*, pp. 14-15; *Mabda’ al-Nīl*, pp. 2-3, 12-14. (末尾の図1、2、3を参照。)
- (39) *Murūj al-Dhahab*, 1:205; *Ṣubḥ*, 3:226.
- (40) *Mu’jam al-Buldān*, 5:334; *al-Mushtarik*, 430.

- (41) または Dumqula。スビア地域の中心都市で同地を統べる王の居城があった。(*Mu'jam al-Buldān*, 2:480-481.)
- (42) コプト暦における農業慣行については、 *Qawānīn al-Dawāwīn*, 234-257.
- (43) *Mu'jam al-Buldān* (5:335-336)では、ナイルの増水は Abib 月から始まるとしており、 *Qawānīn al-Dawāwīn* (253) では Bu'ūna 月としている。
- (44) *Mu'jam al-Buldān* (5:336)では Abib 月から増水は始まるとしているが、 *Qawānīn al-Dawāwīn* (253) では Bu'ūna 月から始まるとしている。
- (45) *Nayl al-Rā'id*, p. 10.
- (46) *Ṣubḥ*, 3:271-276.
- (47) *Ṣubḥ*, 3:300.
- (48) *Mabda'*, p. 4.
- (49) *Fayḍ al-Madīd*, p. 40. cf. *Sukrdān*, 34.
- (50) *Futūḥ Miṣr*, 161 ; *Khīṭaṭ*, 1:61, 74 : マクリーズィーは水利施設に関する具体的支出として、毎年のミクヤースのダクトの清掃には 50DN を要したとしている。(*Khīṭaṭ*, 1:75)

(本学大学院博士後期課程在籍)

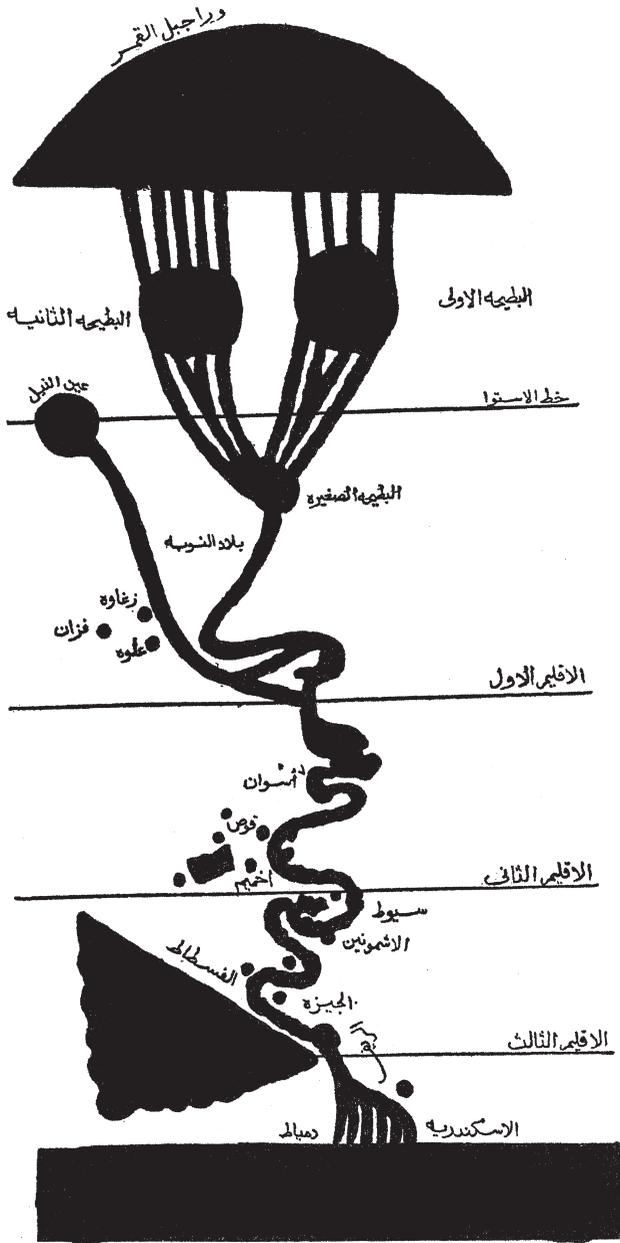


图1：ナイル流域全図 [al-Khuwārizmī, Kitāb Ṣūrat al-Ard.]

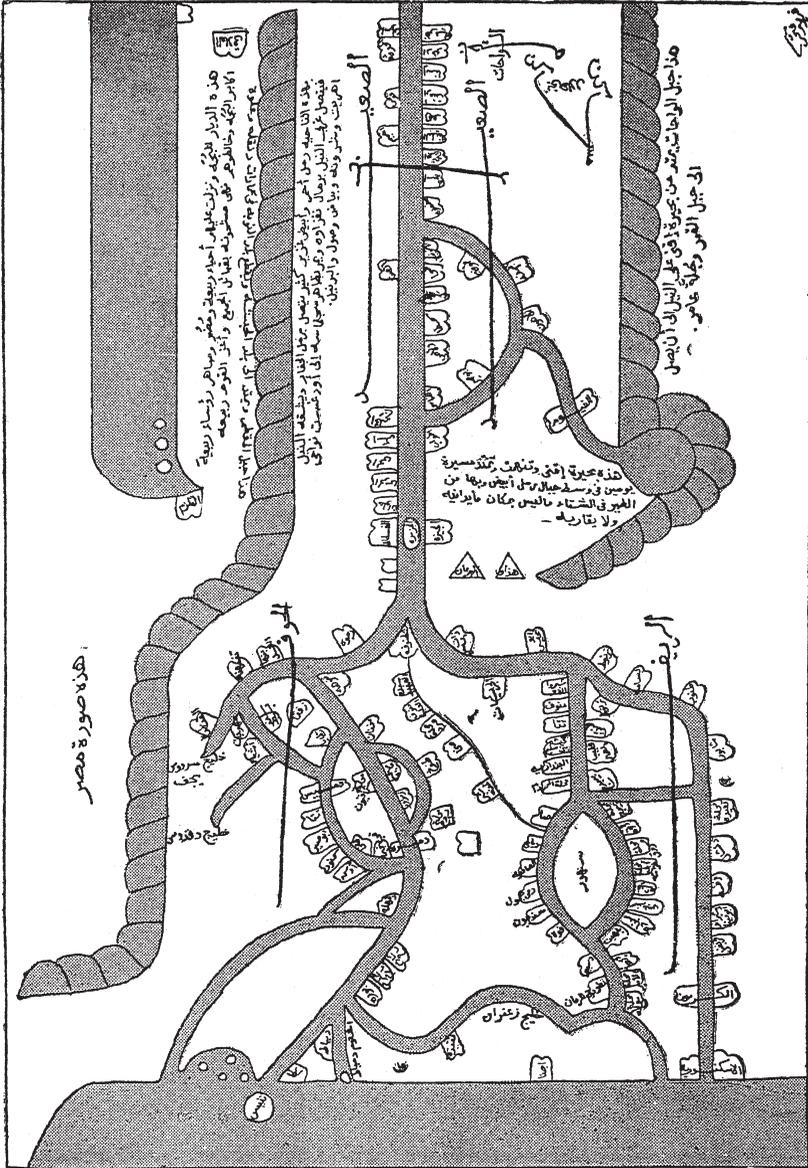


图 2 : エジプト图 [Ibn Hawqal, *Sūrat al-Ard*. 128-129.]

